舞鶴小学校
学 校 通 信
文責
校長 小林史治

羽ばたく子

2022. 12. 12 №9

※学校だよりのタイトル『羽ばたく』は，甲府市出身の宮沢和史さんに作詞作曲していただいた，舞鶴小学校の校歌の歌詞の一節です。「ふるさとを愛し、羽ばたく子に」なって欲しいとの願いをこめてタイトルとしました。

２学期の締めくくりを…

本校では１１月に学級閉鎖の措置をとりましたが、コロナ禍の終焉は見えず、近隣校の様子からは感染に波があるようにも感じられます。感染症対策は、これまで通り万全にしていきますが、それでも罹患するほど今回の変異株の感染力は強く、また潜伏期間も長いようです。万が一罹患してしまった場合でも、変な憶測をせず、罹患した相手の気持ちになって考え、「早く良くなると良いね。」と思い遣る心を発揮することが大切だと思います。ご家庭や地域の皆様と力を合わせてこれからもコロナ感染対策を進めていきたいと思いますので、ご理解とご協力をお願い致します。

個別懇談も終わり、終業式まであと僅かとなりました。６年生は、卒業アルバム作成や制服採寸など、「卒業」という言葉がいよいよ現実味を帯びてきました。また、就学時健診が行われ、新しい子ども達を迎えることが実感される時期にもなってきました。何かと慌ただしい「師走」となりますが、２学期の締めくくりができるようご家庭でのご指導をお願い致します。少し早いですが良いお年をお過ごしください。

「地域連携あいさつ運動」

１学期と同様に三校連携活動として２１～２２日に第２回目の「地域連携あいさつ運動」を行いました。保護者のみならず穴切・春日地区の連合自治会長さんを始めとして地区保護司さんなど地域の方も含め、コロナ禍の中ではありましたが感染症への対策を行いながら、２日間でのべ２２名の方に参加していただきました。地域の方には、普段から声かけや見守りをしていただいていますが、引き続きご支援とご協力をお願いいたします。

未来の科学者訪問セミナー－防災研究－

山梨県の事業で「青少年の科学する心を育むため、科学の不思議や発見の喜びなど、科学の魅力を分かりやすく説明する」セミナーに５年生が参加しました。「防災のための方法を学ぶ」のではなく、「防災について研究する方法を学ぶ」というかなり難しい内容でしたが、子ども達は理科で防災の学習をしていたこともあって「断層地震とどの様に違うのか」など、レベルの高い質問をしていました。先生からは「将来、防災研究に携わる人になってくれたら嬉しい」という素敵な言葉をいただきました。

地区総合防災訓練

１１月１３日には、甲府地区総合防災訓練が舞鶴小学校でも行われました。今年度もコロナ禍の影響を考慮して、体育館でビデオを見た後、校庭での消火器訓練や放水作業の見学、マンホールトイレの講習など全体を分けての訓練となりました。舞鶴の子ども達の安全の確保と「自助・共助」のため、万が一の状況を想定し準備をしていくことの大切さを改めて感じました。

子ども達へ本の寄贈

子ども達の読書を支援しようと地区の民生委員児童委員協議会から本の寄贈がありました。「１００かいだてのいえ」「ともだちや」の巨大絵本を春日地区より、「あらしのよるに」「宮澤賢治のおはなし」の２つのシリーズを穴切地区よりいただきました。子ども達の心の栄養が増えるよう活用していきたいと思います。地域の皆様ありがとうございました。

読書週間と読み聞かせ

子ども達は読書が大好きで、特に読み聞かせの時には目をキラキラして聞いています。１２月７日から読書週間が始まりました。ＰＴＡの読み聞かせボランティアの皆さんだけではなく、様々な読み聞かせがありました。

この日は、図書委員会が事前に録画しておいた「きぼうＨＯＰＥ」という絵本の放映がありました。主人公と動物との交流を通して、何事にも希望を持つことの大切さを教えてくれていました。図書委員会の一人一人が、心を込めて思い遣る心と希望を持つことの大切さを伝えてくれた素敵な読み聞かせでした。

もう１つは、「先生による読み聞かせ」です。読み聞かせは、以前にも記したとおり「どこで、誰が」も大切なポイントになるそうです。先生方も自分の学級でない子ども達へ読み聞かせをすることは、自分の学級以外の様子を理解し、改めて自分の学級を見直す機会にもなるので、良い経験になったと思います。

コロナ禍の前は、「学校応援団」の方々を中心に「読み聞かせ」をしていただいていました。来年度からは「学校運営協議会」が発足しますので、「読み聞かせ」は「学習支援部」の事業として実施されることになります。コロナ禍のため現在は保護者の皆様のみで行っていますが、状況によっては、地域の方を交えた「読み聞かせ」も検討することが出来るようになると思います。

児童会役員選挙

１２月２日には、来年度の児童会役員を決める立会演説会と投票がありました。「あいさつ・思いやり・仲良く・笑顔・楽しい」などの言葉が溢れ、どの候補も推薦者もこれなら来年度の児童会活動が楽しみと思える素晴らしい演説でした。

選挙管理委員会の皆さんが、ひたむきに選挙を支えようとする運営も素晴らしく、立候補者による気持ちのこもった立ち会い演説でした。また、投票所も工夫され、有権者の子ども達もしっかりと投票していました。選挙管理委員会、立候補者、有権者の３者のハーモニーが響き合う選挙でした。

即日開票が行われ翌週、当選した子ども達に当選証書が選挙管理委員長より手渡されました。選挙ですから当落はありますが、相手候補へ、応援してくれた友達へ、送り出してくれた家族へ感謝の気持ちを持つとともに、来年度もより良い児童会活動となるよう全ての舞鶴の子が、新児童会役員さんを中心に力を合わせてくれることとを期待しています。

甲府の子どもの教育総合推進校「公開研究会」

１１月１７日（木）に市内の先生方を招いて「公開研究会」を開催しました。子ども達は、参観される先生方を前にして、立派な態度で授業に臨み、自分の考えをしっかりと話すことができました。

３年生は、「すがたを変える大豆」という説明文の単元でした。説明の順番をバラバラにしたカードを自分の考えで並び替える作業を通して、筆者が説明の順番をどのように付けたのか、「すがたを変える」をキーワードにして考えました。子ども達からは、「形が変わる」「作り方が変わる」などカードに書かれていた記述を根拠に自分の考えを発表していました。

６年生は、「ともなって変わる２つの数量の関係」の学習でした。生活の中に「比例の関係と考えることができる」事例として「紙の枚数と重さ」を表の形でとりあげ、「枚数と重さが対応する関係での一枚あたりの数や比例定数」、「枚数が〇倍になると重さも〇倍になるとする変化の関係」について説明していました。

研究会では、多くの先生方から様々なご意見をいただきました。今後も子ども達のため、より良い授業をつくっていきたいと思います。特別日課や下校の変更など、保護者の皆様のご協力に感謝致します。

HP には、子ども達の学校での様子も載せてありますので、こちらもご覧下さい